

「佐呂間スピードスケート少年団」

まちで輝いている人たちを紹介します



私たち佐呂間スピードスケート少年団は、平成18年に父母の皆さんのご尽力により結成され、若佐小学校スケートリンクをホームとし、現在1年生から6年生の43名がコーチ2名のご指導のもと、早く滑るのはもちろん、挨拶などの礼儀やみんなで協力することの大切さを基本として活動しています。

練習は12月から氷の解け始める2月中旬まで行われます。リンクが完成するまでは、陸上トレーニングとして柔軟、筋トレ、スライドボードを使用してフォームの練習などを行い、スケートリンク完成後は、土日を除く週5日間氷上で基本フォーム、スタート、コーナーなどより実践的な滑りの練習を行います。1年生団員は、極寒の中で靴紐をきつく縛ることも、氷上に立つこともできない子が多いため、少年団の父母で育成会を発足し、当番制で練習のサポートを行います。また、練習後のスケートリンクの水撒き、除雪などの維持管理作

業は昼夜を問わず行っております。

少年団では記録会をシーズン始めと終わりに行い、自己のタイムを縮めるためにコーチの指導を聞き、厳しい寒さの中一生懸命練習に励みます。そのため1年生もシーズン中盤には一人前に滑れるようになります。また、管内のスピードスケート大会にも積極的に参加しており、コーチの団員一人ひとりへの熱心な指導のおかげで入賞する選手が育ってきました。

スケートは厳しい環境でしかも短い期間しかできませんが、集中して練習に取り組むためか、精神的にも肉体的にもシーズン中に大きく成長してくれます。そんな子供たちの一生懸命な姿を見ることが育成会としても楽しみです。

冬の運動不足を補うためにスケートはいかがでしょうか。1周250メートルの若小リンクに滑りに来て下さい。

あとがき

「貯金と借金」

人間社会は物々交換から便利な貨幣(お金)を利用するようになり、お金にアクセスと振り回される昨今である。

身の丈にあった生活が大事なのだと思う。

町の基金(貯金)約44億5000万円。起債(借金)約83億9000万円である。

町の財政指標としては、「基金(貯金)が起債(借金)の約50%であれば概ね健全である。」と言われている。

家庭も町政もいかに借金をせず効率的な運営をすることが望まれる。

日常生活の便利さが向上することに環境が気になる。

空気は？水は？食物は？安全安心なのかと。

山は？川は？湖は？今年もホタルが飛ぶかな？とか、老人の独り言である。

ーじじのつぶやきよりー

(安田一彦)